

潜在患者を調査

水俣市議会 水俣病で病院長答弁

水俣市議会の一般質問は、二十四日午前十時から行なわれ、水俣病問題を中心に質疑がかわされた。

社会党の村上実議員は①市長は水俣病対策の特別委員会を設置す

る考えはないか②工場廃水の監視体制の強化③新日本化学の廃水問題などについてたまたした。

これに対し、橋本市長は「近く水俣病に対する政府見解が出され、公害認定がなされるものと思

われる。そうならば、医療面における法的処置も行なえるので、特別対策委員会をつくる考えはない。廃水の監視については、厚生省と県、市、熊大などに依頼して研究費も補助してもらえると聞いて

いるので、同省の方針に沿ってやってゆきたい」と答えた。

また山田衛生課長は「新日本化学（同市八幡町にある耐火レンガ製造工場）の廃水について、現在まで調べたところでは、一時間当たり五千五百リットルの水を流している。分析結果は塩化マグネシウム

〇・〇一〇・〇六リ、塩化カルシウム〇・五一一〇・六二リ、塩化二・六一二・七リ、水酸化マグネシウム〇・〇五リとなっており、人体への影響はないと思われるが、熊大入鹿山教授にサンプルを送って分析を依頼している」と答弁した。

このあと、共産党の元山弘議員が立ち「潜在水俣病患者の調査や救済について考えているのか」とたまたした。大橋水俣市立病院長は「いままでは患者が保健所を通じて申請を出し、これを水俣病審査委員会が認定するという形をとっていた。今後は補償問題と関連してくるので、わたし個人の考えでは、積極的に潜在患者の調査をする必要があると思っている」と答えた。

は、積極的に潜在患者の調査をする必要があると思っている」と答えた。

は、積極的に潜在患者の調査をする必要があると思っている」と答えた。

〇・〇一〇・〇六リ、塩化カルシウム〇・五一一〇・六二リ、塩化二・六一二・七リ、水酸化マグネシウム〇・〇五リとなっており、人体への影響はないと思われるが、熊大入鹿山教授にサンプルを送って分析を依頼している」と答弁した。